

法学部向け電子書籍セットの展開と、 デジタル時代に対応した学修スタイルの提案

- 岡山大学生協での電子版『法学学修コンテンツセット』の取り組み -
志水一平^{*1}

Email: i.shimizu@chushi-bauc.or.jp

^{*1}: 大学生協 中国・四国事業連合 ショップ事業商品課 (2024 年 12 月まで岡山大学生協ブックストア所属)

◎Key Words 電子書籍 学修スタイルをもとにした教材開発 学修環境のトータル提案

1. はじめに

近年、大学教育において電子教科書の活用が注目されているが、電子教科書採用のシェアは依然として低い。しかし、コロナ禍以降、デジタルを活用した学修スタイルは学生の中で定着しており、学生の間では「より効率的に学びたい」というニーズが高まっており、学修スタイルの変化が顕著である。

本稿では、岡山大学生協が 2021 年度より導入した「法学学修コンテンツセット」の取り組みを紹介し、電子書籍が法学部学生の学修にどのように貢献し得るか、また大学生協が果たすべき役割について考察する。

2. 背景と導入の経緯

2.1 岡山大学法学部の学修スタイル

岡山大学法学部は、公務員志望や法曹志望の学生が多く、国家公務員一般職試験の合格者数は常に全国上位に位置する。また、コロナ禍以前から教室への PC の持ち込みが定着しており、デジタルノートの活用が一般化していた。法学部の教員も学生がデジタルデバイスを授業中に扱うことには理解を示しており、電子教科書導入の抵抗感も少なかった。

2.2 学生モニター利用実施

岡山大学生協では、電子教科書が法学部で有効性の検証を目的として、2019 年末に岡山大学生協は法学部 3 年生を対象にした、教科書 5 冊を用いた電子書籍のモニター利用を実施した。対象の学生からは「複数書籍を 1 台のデバイスで閲覧できる」「検索機能が便利」「通学中や帰省中でも学修できる」といった肯定的な評価が得られた。特に、検索機能は、「書籍本文の必要な箇所直接にアクセスでき、レポート作成の効率が非常に上がった」とのコメントがあった。

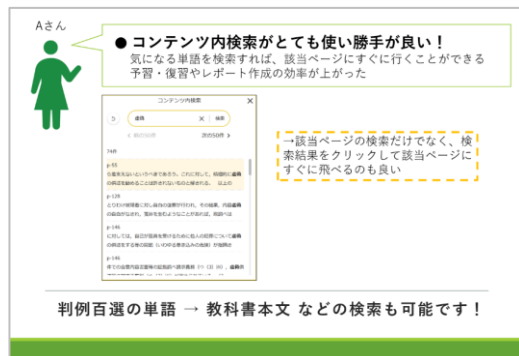


図 1 モニター利用報告会のスライド (画面は旧ビューア)

このモニター利用の結果を、法学部教務委員の教員に報告したところ、「法学は〈言葉遣いの学問〉とも言え、良質な文章を解き明かし、確かな法的知識を身につけ、法的に思考する力を育てていく必要がある。」「最近の学生は情報源が不確かなWEBの情報を引用するので、1年生のうちから法律書を読む癖をつけたい。」とのフィードバックを頂き、法学部での学修に電子書籍が貢献できるという確信を得ることができた。

3. セット内容と学修スタイルの提案

3.1 電子版「判例百選シリーズ」のセット販売

このモニター利用の結果を受け、特に検索性が求められる判例学修^{※1}に着目し、有斐閣の「判例百選シリーズ」のセット販売を企画した。「判例百選シリーズ」は、判例集の定番であり、法学部の教科書にも指定されることもあり、多くの学生が利用している。法律書は法律の改正や裁判所の判例が新しくなると改定があることから、1年生・2年生で履修する必修科目の判例百選シリーズ6タイトルと『判例の読み方』の合計7冊^{※2}をセットとした。

3.2 法学部教授会後に説明会を実施

この企画について前述の教務委員の教員に相談したところ、2020 年 9 月に法学部教授会後に、大学生協の DECS 事業・ビューアの説明と電子版判例百選のセット販売の概要を説明する機会を頂けた。

説明会では、モニター利用の結果を受けて、電子書籍での学修が法学部の学び方に適していることを、ビューアの機能と合わせて紹介した。また、大学生協が実現したい学習環境として、「いつでも信頼できる判例百選を参照できる」「学生の学修を効率化」「判例百選を持っていることを前提とした授業の実現」を提案した。



図 2 実現したい学習環境①

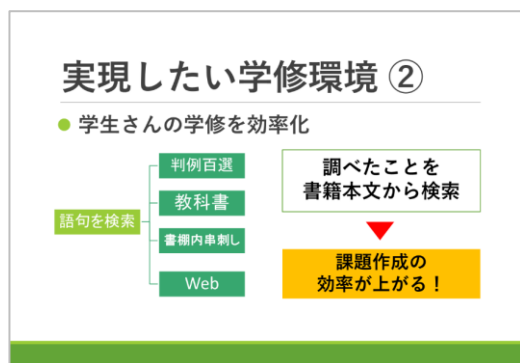


図 3 実現したい学習環境②

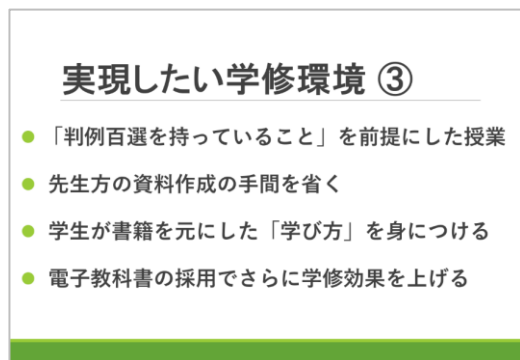


図 4 実現したい学習環境③

教授会に参加した教員からは概ね好意的な評価を頂き、学生が授業中に電子書籍を利用することについては、反対の意見は出なかった。

4. 販売実績と大学生協の役割

「法学学修コンテンツセット」は、2021年度に102名（シェア44%）の利用があり、その後徐々にシェアを伸ばし、2024年度に138名（60%）が購入し、2025年度も法学部の入学者のうち半数以上^{※3}が授業開始前にコンテンツを所持している環境を実現できている。

岡山大学生協にとっても、在庫管理や商品お渡し作業の簡素化といった業務効率化のメリットがあり、学生・教員・出版社・生協にとって有益な仕組みとなっている。

大学生協は、教科書や教材の販売に留まらず、学修環境全体をデザインする役割を担っている。モニター利用による実証、教員との連携、出版社との連携を通じて、学生にとって本当に役立つ教材を提供するという姿勢が、電子版「法学学修コンテンツセット」の成功につながった。

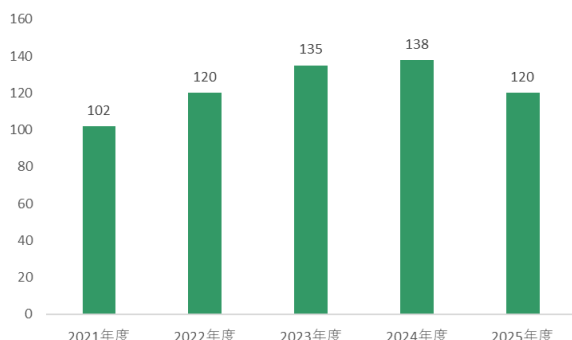


図 5 法学学修コンテンツセット販売数の推移

5. 課題と今後の展望

5.1 課題①セット内容の見直し

岡山大学法学部のカリキュラムに合わせたセット内容のため、カリキュラム変更があった場合は、教員と連携しながらセット内容の見直しを行う必要がある。また、3年生以上の科目を対象にした上級生セットの要望や、学生から要望が多い『ポケット六法』の電子版をセットに含めるなど、セット内容今後の課題も残されている。電子書籍の導入には教員の理解と協力が不可欠であり、学生の声を活かした提案とフィードバックの循環が重要である。

5.2 課題②タッチデバイスか否かで評価が分かれる

電子教科書を採用した教員やその授業を履修している学生にヒアリングをしたところ、タッチデバイスを利用している学生は、直感的な操作やペンでの書き込みが可能のため満足感が高く、逆にタッチ機能が無いラップトップPCを使用している学生は、「使いにくく、紙の書籍の方がいい」という評価だった。

大学生協はコンテンツ（教材）の販売だけでなく、デバイスの提供^{※4}やユーザーサポートも合わせて、学修環境のトータル提案が可能という強みがある。電子書籍をはじめとするデジタルコンテンツの普及には、大学生協が新学期に提案するデバイスの選定も重要である。

5.3 今後の展望

「授業前に多くの学生がデジタルコンテンツを持っている環境」を実現するべく、法学学修コンテンツセットで得た経験をもとに、法学以外の経済・経営や語学科目などの分野への応用を検討したい。

また、理想とするのは、アメリカの大学で導入されている Inclusive Access^{※5} の様なシステムであり、電子書籍を今以上に入手しやすいスキーム構築が必要になる。また、電子書籍ビューア（EDX-UniText）と学務システムとのID統合ができるNTT西日本と岡山大学との包括契約を積極的に支援することも必要であろう。

6. おわりに

岡山大学生協による「法学学修コンテンツセット」の取り組みは、電子書籍が法学部学生の学修効率化に大きく貢献し得ることを示す好例である。本事例を通じて、今後の大学教育における電子書籍活用の可能性と、大学生協が主体的に関わり大学教育の質を向上にどのように寄与できるのか、さらなる議論と実践が期待される。

脚注

^{※1} 判例とは裁判所が下した法律判断のことで、法律の具体的な使い方の指標で法律を理解するために重要な要素である。

^{※2} 2022年より1冊追加し、8冊セットとして提案。セット内容は、有斐閣の『憲法判例百選Ⅰ』『憲法判例百選Ⅱ』『民法判例百選Ⅰ』『民法判例百選Ⅱ』『刑法判例百選Ⅰ』『行政判例百選』『判例の読み方』と信山社『コンパクト学習条約集』。

^{※3} 法学部の入学者定員を230名として計算

^{※4} 岡山大学生協では、教材PCとしてMicrosoft社のsurface Proシリーズを提案している。

^{※5} LMSと連携し、履修登録すると電子教科書を配信され、学生は初回授業の前から教科書を利用できる仕組み。